

JAPAN

2023

一般社団法人

日本ジャズ音楽協会

JAZZ

MUSIC

ASSOCIATION

一般社団法人 日本ジャズ音楽協会 2023ブックレット

目次

一般社団法人 日本ジャズ音楽協会について.....	3
ごあいさつ.....	4
2023年度 ジャズ大賞・会長賞・奨励賞・功労賞.....	6
2022年度 ジャズ大賞・会長賞・奨励賞・功労賞.....	9
2021年度 ジャズ大賞・会長賞・奨励賞・功労賞.....	15
2017年度～2020年度 ジャズ大賞・会長賞・奨励賞・功労賞.....	20
2019年度～2020年度 日本ジャズ音楽協会名誉会長賞 (大島理森衆議院議長賞).....	36
当協会推挙による叙勲・表彰受章者.....	38
《参考資料》ジャズ関係者のおもな叙勲・受章.....	39
一般社団法人 日本ジャズ音楽協会 役員.....	40
表彰式典の様子.....	41

※掲載の氏名につきましては、各賞ごと五十音順・敬称略とさせていただきます。また紹介文は授賞時のものです。

掲載授賞者一覧

▶あ行

青木和富	7
阿川泰子	20, 36
秋満義孝	20, 37, 39
秋山幸雄	6
荒川康男	31
五十嵐明要	21, 37, 39
池田芳夫	31
石塚孝夫	25
市川秀男	15
伊藤 潔	11
稲岡邦彌	18
稲垣次郎	15
稲葉国光	32
猪俣 猛	21, 39
今田 勝	27, 36
今村祐司	16
岩味 潔	33
上原ひろみ	24
内田晃一	38
海野雅威	8
大隅寿男	9
大友義雄	6
大野雄二	28, 36
大橋美加	35
岡村 融	34
小曾根 真	21, 39

▶か行

河合勝彦	13
川島重行	12
岸 のりこ	32
北村英治	37
黒田卓也	13
桑原あい	13
額瀧歩美	18
後藤雅洋	12
後藤芳子	24
小西啓一	18
児山紀芳	25

▶さ行

佐藤秀樹	30
佐藤允彦	26, 39
渋谷 毅	28
ジャズ喫茶「ちぐさ」	14
ジョー蒲池	19
ジョージ大塚	26
菅野邦彦	28
菅原正二	30
杉原 淳	22
杉本喜代志	16
鈴木 勲	26
鈴木良雄	9
瀬川昌久	38

関 京子	14
▶た行	
タイムファイブ	10
高山恵子	35
タモリ	29
土屋行子	19
テディ金城	32
照井 顯	8
寺島靖国	34
外山恵子	37
外山喜雄	22, 39
豊住芳三郎	16

▶な行

内藤忠行	12
中川喜弘	30
中平穂積	31
中村誠一	10
中村照夫	10
中牟礼貞則	27
中本マリ	27
鍋島直昶	29
西村 協	23

▶は行

扱間美帆	35
------	----

花岡詠二	17
原田イサム	29, 37
原田忠幸	23
原 信夫	36
古野光昭	11
細川綾子	25

▶ま行

前田憲男	38
増尾好秋	11
松坂妃呂子	23
松田 敏	19
丸山繁雄	24, 36
水橋 孝	33
峰 厚介	17
村岡 建	33
村上 寛	7
森 寿男	22, 39
森山威男	17

▶や行

山本 剛	7
悠 雅彦	34

一般社団法人 日本ジャズ音楽協会 について

「一般社団法人 日本ジャズ音楽協会」は、2014年からジャズ音楽関係者への栄典授与を目指した活動を始め、2017年9月に正式発足致しました。

当協会の設立目的と事業概要は下記の通りであります。

*目的

我が国の音楽文化に多大なる貢献を果たしてきたミュージシャン、ポピュラー・ヴォーカリスト等の音楽関係者に本来受けて然るべき評価をもたらすべく、各界へ積極的な働きかけを行うとともに、広く本邦の芸術文化、わけてもジャズ音楽関係者の社会的評価のさらなる向上に寄与する事を目的と致します。

*事業概要

1. 叙勲、褒章、表彰等を行う諸機関に対する、技芸・功績共に卓越したジャズ音楽関係者の推挙
1. 本邦におけるジャズ音楽の一層の普及・進行のための非営利活動の実施
1. 前途有望なジャズ音楽関係者の発掘・養成のための非営利活動の実施
1. 会員相互の交流・情報交換のための催事の挙行
1. 上記に掲げる事業に付帯又は関連する事業

*「ジャズ大賞」について

上記の目的に沿い、我が国の音楽文化に多大なる貢献を果たしてきたミュージシャン、評論家、実業家等のジャズ音楽関係者に対し、授与するものと致します。選出は、当会理事によって行われるものとし、表彰状と副賞の授与を行います。

*「会長賞」について

ジャズ大賞に準ずるものとし、同様に表彰状と副賞の授与を行います。

*「奨励賞」について

2020年度に新設しました。その将来性を鑑み、賞状と副賞の授与を行います。

*「功労賞」について

2020年度に新設しました。長年の活動とその功績を称え、賞状と副賞の授与を行います。

ごあいさつ



このたび尊敬する石井一先生が始められた日本ジャズ音楽協会の会長に就任することになりました。石井先生は“国会の暴れん坊”といわれる一方、政界一のジャズ通を自認しておられました。レコード会社の社長をしておられた父君の影響で、甲南大学在学中はバンドを組んでテナーサックスを吹き、政治家になってからは赤坂あたりのピアノバーで演奏されたり、生涯ジャズを愛しジャズ界の振興発展に努力されました。小生が議長職にある時、石井先生が私に熱い心をもってその思いをお話しされたのです。私は音楽が好きです、そしてその事を石井先生はどこからかお聞きになったのでしょうか、日本ジャズ音楽協会設立の趣意を熱意を込めて伝えて頂き感動致し、その御縁で就任を御引き受けした次第です。微力ですが日本のジャズ界の振興とミュージシャンの皆様方、更なる御活躍の為に努力をさせて頂く決意ですので、今後とも日本ジャズ文化の為に皆様方の御力添え出来れば本望です。

一般社団法人 日本ジャズ音楽協会

会長 大島理森



ジャズが好きでレコード会社に入った身としては、大きな不満がひとつありました。それは毎年表彰される国の褒章、勲章を初めとして各種の賞の対象にジャズ関係者が非常に少ないという事でした。ある年米国ジャズ・ツアーにご一緒した、ご自身もジャズ・ファンであられた元国務大臣の石井一さんと相談して、一般社団法人日本ジャズ音楽協会を設立しました。本パンフレットにある様に毎年協会自身が、大賞を初めとしてジャズ関係者を表彰致します。私どもの表彰実績をもとに、文化庁などの公共団体のみならず、近年で言えばJASRACといった各種団体も、ジャズ関係者を表彰の対象にしております。

この度健康上の理由から顧問となり、大島理森氏に会長職をお引き受け頂きました。

顧問 佐藤 修



我が国の芸術文化振興に貢献のあった方々への国家褒賞制度は、日本の伝統文化に偏りがちでした。文化勲章の音楽関係受賞者に即せば、2023年10月現在洋楽関連では評論家の吉田秀和、指揮者の小澤征爾など3氏に過ぎません。これを是正すべきだと立ち上がったのが石井一前会長です。このたび協会顧問に就任する佐藤修元レコード協会会長と語り、まず民間で褒賞制度を作りこの結果を以て文化庁に推薦するルートを切り拓いたのです。日本のジャズの歴史も100年を超え、ミュージシャンの技芸は世界水準に達しており、褒章に値する人物も多い現在、大島新会長のもとでこの運動をさらに活発化させ、日本ジャズの実力を内外に知らしめたいと考えています。

理事長 小針俊郎

一般社団法人 日本ジャズ音楽協会

2023年度

ジャズ大賞・会長賞 奨励賞・功労賞



2023年度 ジャズ大賞

秋山幸雄 ベース奏者

Sachio Akiyama

1927年（昭和2年）10月15日東京都原宿生まれ。日本大学芸術学部在学中の1946年に進駐軍巡りのバンドに勧誘され、プロの道に。1949年からは八戸、仙台の進駐軍キャンプにて演奏。1955年には渡米前の秋吉敏子と共演し、さらにはトミー・パーマー楽団の一員として活動を続ける。その後いったんは音楽の世界から離れるが、1980年代にカムバック。以降、都内を中心に現在も豊饒とした姿でライブ活動を続けている。



Photo by S.Uchiyama

2023年度 ジャズ大賞

大友義雄 サックス奏者

Yoshio Otomo

1947年（昭和22年）3月31日東京都生まれ。幼少よりピアノやクラリネットを独学で習得。日本大学芸術学部時代にはサックスを本格的に学び、ジャズの演奏を始める。その後板橋文夫グループに参加するが、帰国した渡辺貞夫に大いなる影響を受ける。1960年代半ばには自己のグループを結成し、精力的な活動を始め、1974年には土岐英史との共演によるアルバムデビューを果たす。その後単独リーダー作『オー・フレンズ』『アズ・ア・チャイルド』『ムーン・レイ』といったアルバムを次々と発表し話題を集める。また水橋孝との共演での「男が女を愛する時」の演奏は、歴史的名演として今なおファンに語り継がれている。近年は映画音楽をも手掛けるが、ソウルフルで時に熱く、時に切なく迫る「泣きのサックス」は今も健在。海外にも多くのファンを持つ。



2023年度 ジャズ大賞

村上 寛 ドラム奏者

Hiroshi Murakami

1948年(昭和23年)3月14日東京都生まれ。1967年に本田竹広トリオで活動を始める。その後、菊地雅章、渡辺貞夫などのグループに参加。1978年から、本田竹広、峰厚介らとジャズ・フュージョン・グループとして人気を博した「ネイティブ・サン」を結成。1989年に「Four Sounds (峰厚介、板橋文夫、井野信義、村上寛)」を結成。このグループではプロデューサーも兼ねている。1997年からの2年間、「NHK-BSジャズ喫茶」にレギュラー・ドラマーとして出演。その後はケイ赤城トリオ、岡田勉カルテットなどで活動してきた。リーダー・アルバムに『Dancing Sphinx』『VIVO!』がある。



2023年度 ジャズ大賞

山本 剛 ピアニスト

Tsuyoshi Yamamoto

1948年(昭和23年)3月23日、新潟県佐渡郡相川町生まれ。新潟市移住後、小学生の頃からピアノを弾き始める。高校生時代アート・プレイキーとジャズ・メッセンジャーズの生演奏の虜となりジャズ・ピアノを独習。

日本大学経済学部に入学。19歳でプロ入りし1974年レコード・デビュー。2作目『ミステイ』が大ヒット。海外の著名ジャズ祭に出演後1年間ニューヨークで音楽活動を行う。帰国後は六本木の「ミステイ」で活動を再開。笠井紀美子、安田南等ヴォーカリスト達と共演する一方、デジー・ガレスピー、カーメン・マクレエ、エルヴィン・ジョーンズ、ソニー・ステイット等多数の本場ミュージシャンと共演してきた。



2023年度 会長賞

青木和富 ジャズ評論家

Kazutomi Aoki

1947年(昭和22年)8月2日東京都荻窪生まれ、深川育ち。早稲田大学理工学部卒。学生時代に『スイングジャーナル』に寄稿を開始。その後、『アドリブ』『ジャズランド』『ジャズ批評』『ラティーナ』『ブラック・ミュージック・レビュー』『バンドジャーナル』等の音楽誌に寄稿したが、主な活動は一般誌や新聞で、共同通信社『FM fan』、マガジンハウス『平凡パンチ』『ブルータス』『クリーク』等のインタビュー、レビューを担当、中央公論社『海』のコラム、『マリクレール』では音楽コラムを連載。その後も雑誌が中心の執筆活動で、現在も『ジャズライフ』『CDジャーナル』のレビュー、『日本経済新聞』でライブ評を続けている。その他、アルバムのライナーノート、web雑誌の連載、文化講座の講師、放送では、ふくしまFMでジャズ番組を担当。



Photo by John Abott

2023年度 奨励賞

海野雅威 ピアニスト

Tadataka Unno

1980年（昭和55年）8月15日東京生まれ。4歳からピアノを弾き始め、9歳でジャズ・ピアノを始める。東京藝大在学中の18歳からミュージシャンとして活動を始める。2008年にニューヨークへ移住。多くのミュージシャンと活動を共にし活動を続けるが、2013年には『ヴィレッジ・ヴァンガード』で、ジミー・コブ・トリオのピアニストとして日本人初出演。2016年にはロイ・ハーグローヴ・クインテットの日本人初のレギュラー・メンバーに抜擢され、ツアーで世界各地を回る。ハンク・ジョーンズを師と仰ぎその晩年も行動と共にした。2020年9月にコロナ禍のニューヨークでアジア人という理由だけで襲われ、重傷を負うも帰国し、半年の治療の末カムバック。差別や暴力に屈しないその姿は奇跡の復活として、メディアでも大きく取り上げられた。渾身の復帰第1作『Get My Mojo Back』はベストセラーを記録した。その後も日米を股にかけ活躍中である。



2023年度 功労賞

照井 顯 ジャズ喫茶「開運橋のジョニー」店主

Ken Terui

1947年（昭和22年）4月20日岩手県平泉町生まれ。岩手県立高田高校定時制課程を卒業。1967年～74年まで「希望音楽会」と題するレコード・コンサートを開催。1975年、「陸前高田ジョニー」開店。1977年、日本（和）ジャズ専門のジャズ喫茶とする。1978年、レコード・レーベル「ジョニーズ・ディスク」を創設、50タイトルをプロデュース。2001年、盛岡に「開運橋のジョニー」を開店、現在に至る。2010年、東久邇宮文化褒賞、2022年、いわて暮らしの文化特別知事表彰を受賞。

著書に『ジョニーのらくがき帳』、ジャズ物語『瑠璃色の夜明け』『ジャズ喫茶ジョニーの洗濯』等がある。盛岡バスセンター3階に2022年10月4日に「穂吉敏子ジャズミュージアム」及び「Café Bar West 38」開設した。

一般社団法人 日本ジャズ音楽協会

2022年度

ジャズ大賞・会長賞 奨励賞・功労賞



2022年度 ジャズ大賞

大隅寿男 ドラム奏者

Toshio Osumi

1944年(昭和19年)6月23日福井県芦原温泉生まれ。1969年、明治大学を卒業と同時にプロとしての活動を開始。山本剛(p)、八城一夫(p)、大野雄二(p)、中村誠一(ts)などのコンボでセッションを重ね、1978年に自己のトリオを結成。1983年には初のリーダー・アルバム『ウォーターメロン・マン』を発表。1986年にはベースのロン・カーターをゲストに迎えたセカンド・アルバム『ザ・メロディーズ・オブ・ラヴ』をリリース。アン・バートン(vo)、ミッキー・タッカー(p)、阿川泰子(vo)、リチャード・パイン(as)などのアルバムにも参加。

2005年1月『スイングジャーナル』誌の日本ジャズ界に最も貢献した人物らに贈られる賞【第30回南里文雄賞】を受賞する。ジャズのスウィング感とファンキーな感覚がミックスされた演奏スタイルと温かな人柄でライブ・シーンにおいて根強い人気を誇る。



2022年度 ジャズ大賞

鈴木良雄 ベース奏者

Yoshio Suzuki

1946年(昭和21年)3月21日長野県木曾福島生まれ。早稲田大学文学部卒。早大モダンジャズ研究会ではピアノを担当。卒業後渡辺貞夫に師事。彼のバンドでベースに転向。1969年～1973年の間、渡辺貞夫、菊地雅章のグループで活躍。1973年渡米し、1974年スタン・ゲッツ、1975年～76年アート・レイキー&ザ・ジャズ・メッセンジャーズのレギュラー・ベーシストとして活躍。1985年帰国後、自己のグループ「MATSURI」、1993年に「EAST BOUNCE」を結成。

2001年に新グループ「BASS TALK」を結成、2011年6月に増尾好秋(g)とのDUOアルバムを発表し日本全国70か所に及ぶツアーを行う。〈チンさん〉のニックネームでミュージシャン、ファンから親しまれ、日本ジャズ界のリーダー的存在である。現在は世代を超えたメンバーで作る「THE BLEND」を率いている。



2022年度 ジャズ大賞

タイムファイブ ジャズ・コーラス・グループ *Time Five*

同志社大学軽音楽部出身の男性5人(田井康夫、野口鎮雄、勅使河原貞昭、吉村晴哉、杉江浩平)で1968年(昭和43年)に結成されたグループ。学生時代のバンドネームは、「モダン・フラ・ハワイアンズ」。当時、ハワイでヒットしていたコーラスグループ「INVITATIONS」の曲「ナニワイメア」を歌って大学対抗バンド合戦で優勝。結成50年を超えても、メンバーは一度も変わったことがない。大学対抗バンド合戦に優勝後上京、プロとして活動を開始以来、楽器を演奏しながらコーラスするというスタイルと、テンションを駆使した高度なハーモニーをグループのカラーとして、コンサート・ライブ、テレビ、ラジオに出演。1000本以上に及ぶコマーシャル音楽の制作に携わっている。2000年 芸術選奨文部大臣賞大衆芸能部門を受賞している。



2022年度 ジャズ大賞

中村誠一 テナー・サクソ、クラリネット奏者 *Seiichi Nakamura*

1947年(昭和22年)3月17日東京都生まれ。クラリネットを大橋幸夫氏に師事。サクソを石渡悠史氏に師事。国立音大サクソ科卒業。在学中より山下洋輔トリオでデビュー、フリー・ジャズを演奏。その後、自己のグループ、「ジョージ川口 New Big 4」で演奏活動を行う。1978年渡米、ジョージ・コールマンに師事。「中村照夫とライジング・サン」でボブ・ミンツァーなどとクラブ、コンサートに出演。帰国後、NTV『今夜は最高』にタモリと出演。2001年からは吉岡秀晃と「BoNoBo Land」を結成し定期的にコンサートを開催。洗足学園音楽大学教授として多くの後進を指導。2019年、娘のジャズ・シンガー紗理、ダンサー戸山雄介が中心となり、ジャズ・ビッグ・バンド「The Stompers」を結成。デュオから多人数編成まで、様々なユニットでジャズ・クラブやコンサートに出演している。洗足学園音楽大学名誉教授。



Photo by B+

2022年度 ジャズ大賞

中村照夫 ベース奏者、音楽プロデューサー *Teruo Nakamura*

1942年(昭和17年)3月1日東京都生まれ。1964年5月、日本大学芸術学部在学中にニューヨークへ。巨匠レジー・ワークマンに師事し、多くの現地ミュージシャン等の交流を経て、1969年ロイ・ヘインズ・バンドでプロデビューを果たす。その後、自己のグループ「ライジング・サン」を結成、同バンド名義のアルバム『マンハッタン・スペシャル』がジャズ・チャート・トップ10入り。さらには1979年に日本人初のカーネギー・ホール出演などという華やかな話題を集めた。以降「ニューヨークに中村照夫あり」という大いなる存在感を示し続け、1995年以降14年以上にわたり、エイズ救済などを目的としたコンサートを日米で開催した。自身のアルバム制作やコンサート活動以外にも、イヴェント・プロデュース、写真家、DJ等、八面六臂の活躍を現在に至るまで続けている。



2022年度 ジャズ大賞

古野光昭

ベース奏者

Mitsuaki Furuno

1947年(昭和22年)1月1日三重県伊勢市生まれ。東京音楽大学卒業。NHK交響楽団 元首席・檜山薫氏に師事。宮田英夫カルテットでプロ入り後、渡辺貞夫グループ、ジョージ大塚グループ、今田勝トリオを経て、自己のグループ「古野光昭 Expression」を結成する。本多俊之スーパーカルテット、ホットセッション(向井滋春・板橋文夫・古澤良治郎)、辛島文雄トリオ、阿川泰子グループ等数多くのセッション、レコーディングに参加。障害者センターで慰問コンサートを18年間行い、近年は「古野光昭フルノーツ」として小中学校・養護施設などで音楽鑑賞コンサートやワークショップを行うなど、子供たちの音楽教育にも熱心に取り組んでいる。また山下洋輔(p)、渡辺香津美(g)、日野皓正(tp)、寺井尚子(vln)等と企画公演も行っている。



Photo by Sosuke Akahane

2022年度 ジャズ大賞

増尾好秋

ギター奏者

Yoshiaki Masuo

1946年(昭和21年)10月12日東京都中野区生まれ。ジャズ・ピアニストの父を持ち、幼少の頃より音楽に親しむ。早大モダンジャズ研究会在籍中に渡辺貞夫グループの正式メンバーに抜擢されてプロ入り。一躍スター的人気を博す。1971年にニューヨークへ渡り、モダン・ジャズの巨匠ソニー・ロリンズのバンドに通算6年間在籍するほか、リー・コニッツ、エルヴィン・ジョーンズなど数々のビッグ・アーティストと共演し「世界のマスオ」として活躍。自然体で飾らない人柄、人懐っこい笑顔に魅了されるファンも多い。2012年に30年ぶりの自己のバンド「Power Spot」を日本で結成。2016年からは自己のバンド「MAGATAMA」、その他多様なメンバー編成で活動中。現在もアメリカに拠点を置きながら日本でも精力的に演奏している。



2022年度 会長賞

伊藤 潔

音楽プロデューサー

Kiyoshi Ito

1946年(昭和21年)7月24日愛知県名古屋生まれ。慶應義塾大学卒業後1969年CBSソニーに入社。同社退社後に1975年に加わったあいミュージック社においては、同社が契約したレコード会社＝日本フォノグラム(イースト・ウインド)、ビクター(フライング・ディスク)、ソニー(オープン・スカイ)といったレーベルの為に100作品を超えるアルバム制作を続けた。そのなかでも渡辺貞夫の『カリフォルニア・シャワー』や日野皓正の『シティ・コネクション』などが大ヒットを記録し、当時の日本における一大ジャズ・ブームの牽引力となった。1987年に独立プロデューサーとなっても、ナンシー・ウィルソン、ステイヴ・ガッド、エディ・ゴメスといった海外アーティスト、鈴木良雄、伊藤君子、寺井尚子、綾戸千絵、佐藤允彦等の邦人のアルバム・プロデュースを担う。これまでグラミー賞にも2度ノミネートされており、日本を代表するジャズ・プロデューサーとして今なお多忙を極めていく。



2022年度 会長賞

川島重行

音楽プロデューサー

Shigeyuki Kawashima

1946年(昭和21年)6月30日佐賀県唐津市生まれ。横浜市立大学在学中にドラマーとしてバンド活動に励む。1968年にキングレコードに入社。1977年「日本発信の世界に通用するジャズの制作を」という社命を受け、国内外のアーティストによるアルバム制作を手掛ける事となった。邦人においては増尾好秋、本多俊之、益田幹夫、森園勝敏、海外アーティストはアート・ブレイキーやギル・エヴァンスといったジャズの多くの巨人たちの制作に関わったが、なかでもギル・エヴァンス・オーケストラによる『バド&バード』は、1988年度グラミー賞ビッグバンド部門を受賞し、日本人初のグラミー賞プロデューサーになった。また企画制作した「マンハッタン・ジャズ・クインテット」は、ジャズ・レコードとしては異例のヒットを記録することとなった。近年はフリー・プロデューサーとして、松田聖子のジャズ・アルバムの制作にも関わる。手掛けたアルバムは350枚を超える。



2022年度 会長賞

後藤雅洋

ジャズ喫茶「いーぐる」店主、ジャズ評論家 *Masahiro Goto*

1947年(昭和22年)10月12日東京都生まれ。慶應義塾大学商学部在学中の1967年、東京・四谷にジャズ喫茶「いーぐる」を開店。店主として55年以上店に立ち続ける一方、ジャズ評論家としても多数の著作を刊行。ジャズの魅力を精力的に伝道している。おもな著書に『ジャズ・オブ・パラダイス』(講談社プラスα文庫)、『ジャズ喫茶四谷「いーぐる」の100枚』(集英社新書)、『ジャズ完全入門』(宝島新書)、『厳選500 ジャズ喫茶の名盤』(小学館新書)、5年にわたって刊行された『隔週刊CD付きマガジン「ジャズ100年」』シリーズ(小学館)などがある。膨大な量に加え、偏向することのないニュートラルなジャズ聴取体験に基づく具体的かつ明晰な文章は、ジャズ・マニアのみならず多くの音楽ファンから圧倒的な支持を得ている。



2022年度 会長賞

内藤忠行

写真家

Tadayuki Naitoh

1941年(昭和16年)5月30日東京都浅草生まれ。1964年東京デザイナーズ学院写真科を卒業、単身ニューヨークに渡り、ジャズに傾倒する。内外のジャズ・ミュージシャンを撮り始め、さらにはそのルーツである「アフリカ」をテーマに精力的に撮影。1980年代後半には今度は日本文化に回帰し、「桜」「庭園」「蓮」等を撮り、その作り出す独自の世界感により、2005年スワミナサン財団によるプロジェクトの一環である、「モダン・マスターズ・オブ・フォトグラファー/ジャパン」の12人の写真家の一人に選出される。2022年写真展「ジャズ、そしてマイルス・デイヴィス」を、World Jazz Museum 21にて開催。



Photo by Hiroyuki Seo

2022年度 奨励賞

黒田卓也 トランペット奏者

Takuya Kuroda

1980年(昭和55年)2月21日兵庫県芦屋生まれ。現在はニューヨーク、ブルックリン在住。甲南中学の時にトランペットを始め、同大学在学中はビッグ・バンドに所属。2003年に渡米し、ニューヨークのニュースクール大学ジャズ科に進む。2014年には日本人として初めて名門ブルーノート・レーベルと契約して注目を浴びる。ジャズをベースにヒップホップなどの要素も取り入れた、ジャンルにとらわれないその音楽性が、内外で幅広い支持を得ている。



Photo by Toshiaki Kitaoka

2022年度 奨励賞

桑原あい ピアニスト

Ai Kuwabara

1991年(平成3年)9月21日千葉県出身。エレクトーンを幼少から学ぶも中学生よりピアノに転向。洗足学園高等学校音楽科ジャズ・ピアノ専攻を卒業し、2012年にプロ・デビューを果たす。2017年にはメジャー・レーベル Verve (ユニバーサルミュージック)に移籍。コンスタントにアルバム制作、ライブ活動続け、今、最も注目を浴びるピアニスト、作曲家の一人として活躍中。デビュー10周年記念アルバム『Making Us Alive』を9月に発売したばかり。



2022年度 功労賞

河合勝彦 名古屋「jazz inn LOVELY」店主

Katsuhiko Kawai

1944年(昭和19年)9月2日東京都中央区生まれ。中央大学在学中にジャズ喫茶通いを始める。1970年に名古屋女子大小路でジャズバー「jazz inn LOVELY」を開店。3年後にはライブが出来るスペースとしての営業を始め、渡辺貞夫、日野皓正、山下洋輔といったトップ・アーティストを迎える。1976年に名古屋テレビ塔近くの現店舗に移転。国内アーティストはもとより、アニタ・オデイからセシル・テイラーまで、数多くの海外一流アーティストの公演を行う。2000年に30周年、2010年に40周年コンサート開催(コロナ禍により2020年の50周年は未開催)。中部地方を代表するジャズ・スペースとして圧倒的な存在であり、ケイコ・リー等ここを原点として羽ばたいたアーティストも数知れない。本年52年を迎える。



一般社団法人ジャズ喫茶
ちぐさ・吉田衛記念館
代表理事 藤澤智晴

2022年度 功労賞

ジャズ喫茶「ちぐさ」

Chigusa

1933年(昭和8年)に吉田衛によって横浜野毛で創業した「ちぐさ」は、戦時中のジャズの弾圧、1945年5月の横浜大空襲による戦災を乗り越え、終戦後の1948年米軍第8軍によって市域の大部分が接収されていた野毛で復活。米軍キャンプの仕事をとるミュージシャンの溜まり場となり、そこで穂吉敏子、渡辺貞夫らがビバップを学んだ伝説のジャズ喫茶。吉田没後は創業地の地上げによって一時休業するも、「ちぐさ」を愛する人々によって2012年に同町内で再開。老朽化した店舗改装のため休業していたが、2023年12月16日営業再開する運びで、経営母体を一般社団法人ジャズ喫茶ちぐさ・吉田衛記念館として創業90周年を迎えようとしている。授賞対象は一般社団法人「ジャズ喫茶ちぐさ・吉田衛記念館」。(2023年11月一部追記)



2022年度 功労賞

関 京子 ジャズ・クラブ「BODY & SOUL」オーナー

Kyoko Seki

1940年(昭和15年)12月25日東京都中野区生まれ。松竹音楽舞踊学校卒業。ジャズ好きが昂じて1965年に新宿「タロー」を開店、1974年に「BODY & SOUL」と名称変更し、以後六本木、青山を経て2021年現在の渋谷に居を移した。半世紀以上をトップ・ジャズ・クラブのオーナーとしてその経営にあたり、内外のミュージシャンとの幅広い交流を築きながら現在に至る。2015年には自伝的エッセイ『身も心もジャズ』出版。

一般社団法人 日本ジャズ音楽協会

2021年度

ジャズ大賞・会長賞 奨励賞・功労賞



2021年度 ジャズ大賞

市川秀男 ピアニスト

Hideo Ichikawa

1945年(昭和20年)2月22日静岡県生まれ。小学校時代よりピアノを始め、中学3年の時に上京し、国立音楽大学付属高校に入学し作曲などを学ぶ。その後プロのミュージシャンとして活動を開始する。1966年『ナウズ・ザ・タイム』でレコーディング・デビュー。同年12月、ジョージ大塚トリオに参加。1970年4月都市センターホールでジャック・ディジョネットと競演、同年6月には初のリーダー・アルバム『ホリデー』を録音、同年10月日野皓正グループに参加。1972年ジョージ大塚トリオを脱退。中川幸男、小津昌彦とともに自己のトリオを結成する。1976年「ジョージ川口とビッグ・フォー」に参加。1980年富樫雅彦、鈴木勲とともに「トリニティ」を結成。同グループは『ワンダー・ランド』『微笑み(スマイル)』のアルバム2枚をリリース。1999年ネットワーク配信のための新作を録音。現在でも音楽分野で新しいものに挑戦しつづけている。



2021年度 ジャズ大賞

稲垣次郎 サックス、フルート奏者

Jiro Inagaki

1933年(昭和8年)10月3日東京都生まれ。高校時代からプロとして活躍し「フランキー堺とシティ・スリッカーズ」「ジョージ川口とビッグ・フォー」を経て、1962年自身のグループ、稲垣次郎クインテットを結成。翌年にはライオネル・ハンプトン・オーケストラの日本公演、日野皓正とともに白木秀雄クインテットに参加。1969年、日本のジャズ・ロックの草分けのグループ「稲垣次郎とソウル・メディア」を結成。セッション・プレイヤーとしてステイヴィー・ワンダー、スタイリストックス、フランク・シナトラ等の日本公演に参加。プロデューサー、音楽監督として西城秀樹、ピンクレディー、麻実れい等を手掛けるほか、大滝詠一のNIAGARA作品に参加するなど幅広く活躍。1980年「前田憲男とウィンドプレイヤーズ」に参加。現在もプレイヤー、プロデューサーとして活動中。



2021年度 ジャズ大賞

今村祐司 パーカッション奏者

Yuji Imamura

1939年(昭和14年)3月30日東京都生まれ。高校2年の夏休みに「村越一夫とマンボキング」のバンドボーイになる。その後、ラテン・ピアニストの第一人者となる松岡直也バンドに10年間所属。アメリカから帰国後の渡辺貞夫とレコーディングやコンサート、FM放送の「マイ・ディア・ライフ」などに出演する。その後、日野皓正グループの一員として、レコーディングやモントルー・ジャズ・フェスティバルに出演。日野皓正渡米後は日野元彦グループに参加する。志村康夫、井野信義が参加した自己のグループで『エアー』をレコーディング。その後、今田勝カルテット、本田竹曠、後藤輝夫とのデュオなど様々なユニットで演奏をする。現在は松風紘一、渋谷毅、上村勝正、外山明とピットインで活動中。



2021年度 ジャズ大賞

杉本喜代志 ギター奏者

Kiyoshi Sugimoto

1942年(昭和17年)2月3日静岡県生まれ。小学校6年からギターを始める。上京後バンド活動を続け、1970年に日野皓正グループに参加。翌71年のベルリン・ジャズ・フェスティバルやニューポート・ジャズ・フェスティバルなど海外での同グループでの演奏が話題を呼ぶ。同年には初リーダー作品『カントリー・ドリーム』を発表。日野皓正グループを脱退後、1974年に渡米し、自己のグループを結成し活動を続ける。帰国後も自己のジャズ・セッションを中心に、浅川マキやオルガンの寒川敏彦とのコラボレーション作品等を多く残す。1981年にマーカス・ミラー、オマー・ハキムらと残した作品『ワン・モア』も高い評価を得た。2020年2月には60年のキャリアで初となる「Birthday Live」を開催して、変わらぬ健在ぶりを示している。

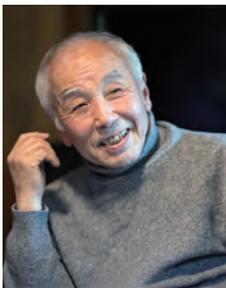


Photo by Mika Yoshihisa

2021年度 ジャズ大賞

豊住芳三郎 ドラム奏者

Yoshisaburo Toyozumi

1943年(昭和18年)7月11日神奈川県生まれ。富樫雅彦に師事。「ミッキーカーチス&サムライ」で欧州ツアー。渋谷毅トリオ、「高柳昌行とニューディレクション」「宮間利之とニューハード」、Sabu Unit、高木元輝とのデュオ、阿部薫とのデュオなどで活動。1971年シカゴの「AACM」初の外国籍メンバーとなる。アルバムはイタリアやリトアニアでも発売される。活動はおもに海外での公演が多い。



2021年度 ジャズ大賞

花岡詠二 クラリネット奏者

Eiji Hanaoka

1944年(昭和19年)8月9日東京都生まれ。日本大学芸術学部音楽学科卒。クラリネットを大野恒一、大橋幸夫、北爪利世に師事。在学中より自己のコンボを率いる。ベニー・グッドマン・スタイルの「花岡詠二スキング・オールスターズ」をメインに、その他コンボからオーケストラまで様々なスタイルのグループを編成し、多彩な芸達者ぶりを披露している。よくスイングする明るい演奏で、また古典落語にも造詣が深く話術も巧み、ユーモア溢れる人柄でファンも多い。海外では1996年よりオランダのブレダ市で開催されているブレダ・ジャズ・フェスティバルに毎年招聘されている。ベニー・グッドマンのサウンドを後世に伝えるべく、1987年より毎年「メモリーズ・オブ・ベニー・グッドマン」と題した定期コンサートを続けている。



2021年度 ジャズ大賞

峰 厚介 サックス奏者

Kosuke Mine

1944年(昭和19年)2月6日東京都生まれ。中学時代にクラリネットを吹き始め、17歳頃にはサックスも吹き始める。1963年にジャズ・クラブで演奏を始め、1969年に菊地雅章のバンドに参加し、1973年の解散まで在籍する。その後、ニューヨークに渡り2年間滞在し、1975年帰国。1978年には本田竹曠らとネイティブ・サンを結成しコンサート、アルバム制作(計8枚)など精力的な活動でジャズ・フュージョングループとして人気を博す。その後、板橋文夫、井野信義、村上寛と結成したフォー・サウンズや、富樫雅彦&J.J.スピリッツなどを経て、1992年自身のクインテットを結成し活動を続けている。また、渋谷毅オーケストラをはじめ数多くのセッションに参加している。



2021年度 ジャズ大賞

森山威男 ドラム奏者

Takeo Moriyama

1945年(昭和20年)1月27日東京都生まれ。生後すぐに山梨県甲州市に移住。幼少期に聴いたジャズの生演奏に魅了され、ドラムに興味をもつ。甲府第一高等学校入学後、プラスバンド部に入部し2年生からドラムを担当。東京藝術大学音楽学部器楽科に入学。在学時からジャズのセッションに参加し、山下洋輔と親交を持ち、1969年に結成された山下洋輔トリオに初代ドラム奏者として参加。特異なフリー・フォームを完成させ3度のヨーロッパツアーで激賞を受けたのちの1975年に山下洋輔トリオを退団。1977年より森山威男カルテットなど、自己のバンドでフォービート・ジャズに回帰、日本はもとよりドイツ、イタリアでも演奏。2001年からは現居住地である岐阜県の可児市文化創造センター 主劇場にて「MORIYAMA JAZZ NIGHT」を毎年開催し、地元の文化活動に貢献している。



2021年度 会長賞

稲岡邦彌

プロデューサー
『JAZZ TOKYO』編集長

Kuniya Inaoka

1943年(昭和18年)4月12日 兵庫県伊丹市生まれ。私立海城高校を経て、1967年早稲田大学第一政経学部経済学科卒業。ドイツ商社勤務を経て1971年トリオ株式会社(現JVCケンウッド株式会社)レコード事業部入社。洋楽部長、制作部長を歴任。1972年より10年間ECMレーベル・マネジャー。2004年、月刊ウェブ・マガジン『JazzTokyo』創刊、編集長に就任。2020年、キングインターナショナル社にNadja21レーベルを設立、ジャズ音源(アーカイブ)の復刻を開始。著書に『改訂版ECMの真実』、共著に『ジャズCDの名盤』、編著に『増補改訂版 ECM catalog』『及川公生のサウンドレシビ』がある。



2021年度 会長賞

小西啓一

ラジオ・プロデューサー
ジャズ・ライター

Keiichi Konishi

1944年(昭和19年)8月15日東京都生まれ。高校生の頃からジャズに親しみ、早稲田大学ではジャズ研に所属し、鈴木良雄、タモリなどと交友。卒業後は日本短波放送(現ラジオ日経)に入局、ドラマやドキュメンタリー、スポーツ中継などあらゆる現場業務を経験。民放賞(ラジオ部門)なども数回受賞。またジャズ番組「テイスト・オブ・ジャズ」(57年続く長寿番組)制作を現在まで約50年間担当。ジャズ・ライターとしても『ジャズジャパン』誌などのレギュラー執筆やジャズ・ディスク大賞等の選考委員も務める。東京都中野区等の区民文化センターでジャズ講座の企画・実施など、ジャズ啓蒙・普及活動にも関わる。



2021年度 奨励賞

瀨瀨歩美

サクソ奏者

Ayumi Koketsu

1988年(昭和63年)岐阜県生まれ。トロンボーンを演奏する父親の影響で、幼少の頃からジャズ、ラテン、フュージョンに親しむ。3歳よりピアノを習い、中学でサクソへ転向。高校から本格的にジャズを始め、椿田薫に師事。その後甲陽音楽学院名古屋校にて学び、その頃から岐阜、名古屋を中心にライブ活動を始める。2010年ファースト・アルバム『Struttin'』にてメジャー・デビュー。2012年ノルウェーで、2013年、2014年にはニューヨークでレコーディング。2018年小野リサをプロデューサーに迎えた初のボサノヴァ・アルバム『o pato』を発表。落ち着いた柔らかな音色と、時にダイナミックなアプローチで、多くのファンの支持を得ている。



2021年度 功労賞

ジョー蒲池

ピアニスト

Joe Kamachi

1941年(昭和16年)12月14日東京都生まれ。東洋音楽学校在学中よりプロ活動を始める。その後ニューヨーク在住のピアニスト、レッド・リチャーズに10年間師事。「稲垣次郎とソウル・メディア」「原信夫とシャープス&フラッツ」等のバンドに所属し、ニューヨークのクール・ジャズ・フェスティヴァルなど海外公演に多数参加。また、サミー・デイヴィスJr.などの国内公演の伴奏を行う。独立後は、作編曲、演奏と多岐にわたって活躍。2002年オリジナル曲による初のリーダー・アルバム『Spread』を、40年来の親友でニューヨーク在住の中村照夫(b)のプロデュースにより発売。2006年スタンダード曲中心のセカンド・アルバム『Jazz Street』を発表。2007年4月より赤坂「ジャズピアノクラブJOE」のオーナー・ピアニストとなり、現在に至る。



2021年度 功労賞

土屋行子

ジャズ喫茶「ゆしま」店主

Yukiko Tsuchiya

1921年(大正10年)3月18日東京都港区赤坂生まれ。戦前の幼少の頃から二人の兄の影響で、スイング・ジャズに目覚め聞き惚れ、高等女学校や洋裁学校を卒業してからも、さらにジャズ・サウンドに傾倒した。結婚をして戦後に疎開していた熱海に夫との死別後も住み続け、1952年より、ジャズを流す「喫茶ゆしま」を始める。その後1966年には、店名に「ジャズ喫茶」を付ける事となった。2022年4月に創業70年を迎える。

『店のコレクションは、観光地＝熱海の1950～80年代に町に溢れていたホテルやクラブのバンドマンのお客さんの影響もあって、ヴォーカルやピアノ・ソロからビッグ・バンド・ジャズまで、かなり幅広いのが自慢です。若いお客様への100歳店主のジャズの魅力の語りが絶妙です。ジャズ・ファンの高齢化が気になっております』(お店より)



2021年度 功労賞

松田 敏

ピアニスト

Satoshi Matsuda

1938年(昭和13年)1月10日鹿児島県奄美大島生まれ。1958年に早稲田大学第一文学部に入学のため上京。同大学の創部して間もないビッグ・バンド・ジャズの名門サークル、ハイソサエティ・オーケストラ(通称ハイソ)に入り、ピアノを担当する。卒業後、一旦は出版社に入社したものの、プロのピアニストを志し会社を辞め、縁あった新潟に移住。市内のナイトクラブなどで演奏活動を続けながら、ジャズ理論などを学び、研鑽を積む。1966年に再度上京し、都内で様々なクラブ等で演奏活動を続ける。1995年に銀座のジャズ・ライブ・スペース「DREAM」に入店。2011年には前オーナーが閉店の意思を固めるも、「銀座から、日本のジャズの火を消してはならない」との強い思いから、同店のオーナーとなることを決意し、現在に至る。毎夜、店内でピアノを弾きながら、ヴォーカリストなど後進の指導にもあたっている。

一般社団法人 日本ジャズ音楽協会

2017～2020年度

ジャズ大賞・会長賞 奨励賞・功労賞

● 2017年度



2017年度 ジャズ大賞

阿川泰子 ヴォーカリスト

Yasuko Agawa

神奈川県鎌倉市出身。女優を経て、1978年にアルバム・デビューを果たすと「ネクタイ族のアイドル」などと呼ばれ、瞬く間に時の人となる。以後コンスタントなアルバム制作やライブ活動で支持を広げ、1987年にテレビ番組の司会を務めた以降は、誰知らぬ者のいない存在となった。その正統派ジャズ・ヴォーカルを継承しつつもコンテンポラリーなテイストを兼ね備えたスタイルは、今なお健在でトップ・スターとして君臨し続けている。その功績により、一般社団法人日本ジャズ音楽協会から2017年に「ジャズ大賞」、2019年「名誉会長賞」をダブル受賞。



2017年度 ジャズ大賞

秋満義孝 ピアニスト

Yoshitaka Akimitsu

1929年（昭和4年）8月19日東京都生まれ。武蔵野音楽大学ピアノ科中退。1947年から活動を始め、1948年に「松本伸とイチバン・オクテット」に入団。1953年「鈴木章治とリズムエース」の結成時に南部三郎、浅原哲夫と参加し、のちに加わる原田イサムとともにリズムエースの黄金時代を築き上げる。1957年には秋満義孝クインテットを結成。“日本のデディ・ウィルソン”と呼ばれた。ヴォーカリストのペギー葉山との名コンビはペギーの死まで続いた。スウィング・ピアノの第一人者として、現在も活躍中である。



2017年度 ジャズ大賞

五十嵐明要 サックス奏者

Akitoshi Igarashi

1932年(昭和7年)6月2日東京都中央区八丁堀生まれ。若い頃から「原信夫とシャープス&フラッツ」、ブルーコーツ、ジョイフル・オーケストラと、一貫してコンサート・マスターを務める。1989年にはモントレー・ジャズ・フェスティバルに出演。また1994年にはニューヨークの音楽の殿堂カーネギーホール、アポロシアターにも出演。アルバムは『SAX TALK』『SWING TIME』など多数。現在は、自己のカルテットを率いて東京を中心にライブ活動を展開中。



2017年度 ジャズ大賞

猪俣 猛 ドラム奏者

Takeshi Inomata

1936年(昭和11年)2月6日兵庫県宝塚市生まれ。宝塚歌劇団のオーボエ奏者の父のもと、宝塚市に生誕。兄も有能なトランペッターであったことから、幼い頃から音楽に囲まれて育った。兄から薦められてベニー・グッドマン楽団がカーネギーホールで演奏した「シング・シング・シング」を聴き、ジーン・クルーパのドラミングに感動してドラマーを志す。上京して日比谷公園の中の日比谷倶楽部などで演奏。五十嵐武要の後をうけて「西条孝之介とウエストライナーズ」に入団。のちにリーダーを務める。以後演奏活動と並んでリズム・クリニック・センターを設立し若手の育成にも注力。1994年にビッグ・バンドを率いてカーネギーホールの舞台にも立った。2017年末には文化庁長官表彰受賞。現在も後輩の育成・教育にも力を注いでいる。



2017年度 ジャズ大賞

小曾根 真 ピアニスト、作曲家

Makoto Ozono

1961年(昭和36年)3月25日神戸市生まれ。1983年バークリー音楽大学ジャズ作編曲科を首席で卒業。同年米CBSと日本人初のレコード専属契約を結び、アルバム『OZONE』で全世界デビュー。以来、ソロ活動のほか、ゲイリー・パートンらトップ・プレイヤーとの共演や、自身のビッグ・バンド「No Name Horses」を率いてのツアーなど、最前線で活躍。2016年には、チック・コリアとの日本デュオ・ツアーを成功させ、2017年にはゲイリー・パートンの引退記念日本ツアーを催行。同年11月にはニューヨーク・フィルに招かれ、「バーンスタイン生誕100年祭」に出演。2020年はNo Name Horsesの15周年記念アルバムをリリース。映画音楽など作曲にも意欲的に取り組み、多彩な才能でジャンルを超え、幅広く活躍を続けている。



2017年度 ジャズ大賞

外山喜雄 トランペット奏者、ヴォーカリスト *Yoshio Toyama*

1944年(昭和19年)3月5日東京都港区芝生まれ。中学2年でトランペットを吹き始め、早稲田大学時代はニューオリンズジャズクラブで活躍。1967年夫婦でニューオリンズに渡る。老舗ジャズ・スポット「プリザヴェーション・ホール」の裏に住み、バンドを結成。1969年に一時帰国し、「外山喜雄とニューオリンズ・セイイツ」で活動。1971～73年は再びニューオリンズで活動。1975年「外山喜雄とデキシーセイイツ」結成。1983年の東京デイズニールランド開業から2006年まで人気バンドとして演奏。1994年にルイ・アームストロング・ファウンデーション日本支部(1998年から日本ルイ・アームストロング協会)を設立。「銃に代えて楽器を」をスローガンに、ニューオリンズ市の子供たちに楽器をプレゼントする運動に取り組み、2005年に外務大臣表彰を受ける。2018年アメリカで「スピリット・オブ・サッチモ賞生涯功労賞」を受章。



2017年度 ジャズ大賞

森 寿男 バンドリーダー *Toshio Mori*

1932年(昭和7年)10月3日大阪府生まれ。1946年から活動する日本最古のビッグ・バンド、ブルーコーツ・オーケストラの3代目リーダー。同バンドは、最も長い歴史と伝統を誇っており、黛敏郎、穂吉敏子、ナンシー梅木、スリーグレイセスら、数多くの有名な音楽家を輩出している。1970年、東京藝術大学出身の森寿男が3代目リーダーを引き継ぎ、カウント・ベイシー、デューク・エリントンの精神とフィーリングを追求し、心に語りかける暖かいサウンド創りを目標に演奏活動を続けている。ブルーコーツ・オーケストラは2021年、結成75周年となる。【2022年12月1日逝去】



2017年度 会長賞

杉原 淳 サックス奏者 *Jun Sugihara*

1936年(昭和11年)8月6日神奈川県鎌倉市生まれ。生まれ。「沢田駿吾とダブル・ビーツ」でプロとしてデビュー。その後、世良譲のグループを経て自己のバンド「杉原淳とイーストサウンズ」を結成。ファンキー・ジャズで人気を博す。1969年「大橋巨泉とサラブレッズ」に参加。日本テレビ「11PM」に16年間レギュラー出演する。その後はプロデューサーとしても活躍。アルバムは『EASY LIVING』など多数。【2018年12月23日逝去】



2017年度 会長賞

西村 協 ヴォーカリスト

Kyo Nishimura

1948年(昭和23年)2月22日滋賀県大津市生まれ。明治学院大学法学部在学中にフォーク系コーラス・グループ「グリーンメン(吟遊詩人)」を結成、北山修作詞、加藤和彦作曲「恋したら」でデビュー。以後レコード歌手として活躍する一方で日本を代表するエレキバンド「寺内タケシとブルージーンズ」にヴォーカリストとして参加。ロシア公演など海外公演も多数経験する。本格派アダルト・ポップス・シンガーとして、根強いファン層に支持されている。1999年には初のスタンダード・ジャズ・アルバム『I'm In The Mood For Love』を発表、ジャズ界のみならず各方面で絶賛を博す。以降都内や横浜を中心に各地のジャズ・ライブを展開中。2008年 第1回「澤村美司子賞」大賞、同年第24回「日本ジャズヴォーカル賞」大賞を受賞する。



2017年度 会長賞

原田忠幸 サックス奏者

Tadayuki Harada

1936年(昭和11年)7月20日京都府生まれ。1952年レイモンド・コンデにクラリネットの手ほどきを受ける。1954年「原信夫とシャープス&フラッツ」に入団し2年後に退団。1956年「西条孝之介とウエストライナーズ」に参加。1966年に渡米し、ロサンゼルス、ラスベガスでスタジオ、ショーを中心に活動。帰国後の1971年に自己のバンド「ザ・ハーツ」を結成。そのほか、フランク・シナトラ、ヘレン・メリルの来日公演で伴奏を務めるなど多くの活動を行う。1980年「前田憲男とウィンドプレーカーズ」、1994年「猪俣猛オールスターズ」に加入。2002年CD『MIDNIGHT SUN』リリース。現在は日本ジャズ・バリトン・サックス奏者の最高峰として、ライブ、レコーディングなど多忙な日々を送る。



2017年度 会長賞

松坂妃呂子 編集者、ジャズ批評誌社長

Hiroko Matsuzaka

1932年(昭和7年)10月22日福島県生まれ。町にやってきた女流マジシャン松旭斎天勝一座の3人の黒人バンドの演奏に驚愕を覚える。この影響で戦後すぐに聴いたルイ・アームストロング、ビング・クロスビーなどの音楽に胸をときめかせた青春時代をおくり、1953年上京。休日ごとに浅草にでかけアメリカ映画やジャズ・バンドの演奏を楽しんだ。1965年33歳の時、銀座一丁目にジャズ喫茶「オレオ」を開店。ジャズが前衛化した時代で、詩人、文筆家などが集まり、店の片隅のテーブルを編集部として1967年に『ジャズ批評』を創刊する。2017年に同誌は創刊50周年、通巻200号を達成した。【2018年5月26日逝去】



2017年度 会長賞

丸山繁雄 ヴォーカリスト

Shigeo Maruyama

1951年(昭和26年)6月22日新潟県生まれ。芸術学博士。早稲田大学第一文学部在学中から都内ジャズ・クラブで活動を開始。2011年学位論文「アフリカン・アメリカン音楽の言語同化現象」で日本大学より芸術学博士号を取得。公演活動、テレビ出演、アルバム発表、連載・著書など多数。

● 2018年度



Photo by Mari Amita

2018年度 ジャズ大賞

上原ひろみ ピアニスト、作曲家

Hiromi Uehara

1979年(昭和54年)3月26日静岡県生まれ。6歳からピアノを始め、早くからジャズに関心を持つ。バークリー音楽大学を首席で卒業。その直前には米テラーク・レーベルより初リーダー作を発表。以降コンスタントにアルバム制作を続けるとともに、おもに自己のトリオを率いて世界中をツアーで回る。2021年東京オリンピック開会式でも演奏。日本が誇るアーティストとして、今後も世界を舞台にさらなる活躍が期待されている。



2018年度 ジャズ大賞

後藤芳子 ヴォーカリスト

Yoshiko Goto

1933年(昭和8年)2月21日東京都生まれ。精華学園高等学校卒業後、1952年「北村英治とリズムメイツ」に参加。NHKテレビのスタート後は多くの番組に出演。1970年の渡米時には佐藤允彦とファースト・アルバムを、1972年には名ベーシスト、レイ・ブラウンとともにセカンド・アルバムを吹き込んだ。帰国後も多くのアーティストと共演するかたわら、ジャズ・スクールにて講師を務め、後進の指導に当たった。現在も都内を中心にステージに立って健在ぶりを発揮している。



2018年度 ジャズ大賞

細川綾子 ヴォーカリスト

Ayako Hosokawa

1939年(昭和14年)東京都生まれ。1952年より作曲家、浜口庫之助に師事し、米軍キャンプでプロの歌手としての活動をスタートさせる。1954年にはブルー・コーツの専属歌手になり、一躍注目を浴びた。1960年代に渡米し、名門アール・ハインズ楽団に参加。1970年代以降に彼女がスリー・ブラインド・マイス・レーベルに残した諸作は、今なお名盤として語り継がれている。【2020年11月28日逝去】



2018年度 会長賞

石塚孝夫 プロモーター

Takao Ishizuka

1932年(昭和7年)東京都生まれ。戦後間もない時代に観たビックス・バイダーベックをモデルにした映画『情熱の狂想曲』でジャズに目覚める。立川高校在学中に来日したジーン・クルーバ・トリオに感激してドラム奏者を志す。プロ活動の後、1961年に西武グループの音楽イベントを企画制作を手掛け、1963年外国人アーティストを招聘するオールアート・プロモーション設立。招聘第1号はキャノンボール・アダレイ・クインテット。以後アート・ブレイキー、MJQ、オスカー・ピーターソン、サド＝メル・オーケストラ、カーメン・マクレエなど150以上の著名ジャズメンを招聘。1986年からは富士通コンコード・ジャズ・フェスティバルを2011年まで制作。現在も毎年春秋2回のコンサートを自主制作している。【2022年4月4日逝去】



2018年度 会長賞

兎山紀芳 ジャズ評論家

Kiyoshi Koyama

1936年(昭和11年)大阪市生まれ。関西大学文学部英文科卒。『スイングジャーナル』誌編集長を2期17年にわたって務め、国内外の多くのミュージシャンと親交を結ぶ。1980年代には米レコード会社のマスターテープ保管庫から未発表音源の発掘作業を積極的に行い、『キーノート・コンプリート・コレクション』『ブラウニー：コンプリート・クリフォード・ブラウン・オン・エマーシー』でグラミー賞の「ベスト・ヒストリカル・アルバム部門」に2度ノミネートされた。米『ダウンビート』誌が行う国際批評家投票に唯一の日本人として投票に参加。ラジオDJとしても活躍し、NHK-FM「ジャズ・トゥナイト」に長年出演した。【2019年2月3日逝去】



2018年度 会長賞

佐藤允彦

ピアニスト、作編曲家

Masahiko Satoh

1941年(昭和16年)10月6日東京都生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業。1966年から1968年までアメリカ合衆国ボストン市のバークリー音楽院(現バークリー音楽大学)に留学して作曲・編曲を学ぶ。1969年、帰国後初のリーダー・アルバム『パラジウム』で『スイングジャーナル』誌「日本ジャズ賞」受賞。1970年、ビッグ・バンドのための作品『四つのジャズコンポジション』で芸術祭優秀賞を受賞。以後多くの秀作、問題作を発表。音楽の幅も広く1993年には日本武道館に千人の僧侶を集めて開催した声明コンサート“千僧音曼荼羅”において、作・編曲に加えて音楽監督も担当。1997年、自己のプロデュース・レーベル「BAJ Records」を創設。音楽学校メーカー・ハウスを設立し自身もマスタークラスで講師を務め、多くのプロ・ミュージシャンを世に送り出している。



2018年度 会長賞

ジョージ大塚

ドラム奏者

George Otsuka

1937年(昭和12年)4月6日東京都生まれ。鈴木章治のバンドボーイから音楽界に入る。1957年渡辺貞夫のコーギー・カルテットに参加。その後しばらく和製ポップス・グループで活動。1960年には、かまやつひろしとプレイする。1964年に菅野邦彦らと松本英彦カルテットに参加。ジョン・コルトレンやマイルス・デイヴィスの影響を受けた当時最先端のモード・ジャズの演奏に励む。1966年に自身初のバンド、ジョージ大塚トリオを結成した。メンバーは市川秀男、寺川正興。1970年代に入り、植松孝夫、大野俊三が参加するクインテットを結成。またフュージョン・グループ、マラカイボを結成するなど日本ジャズ界に貢献した。【2020年3月10日逝去】



2018年度 会長賞

鈴木 勲

ベース奏者

Isao Suzuki

1933年(昭和8年)1月2日東京都生まれ。立教大学在学中に、来日したルイ・アームストロング・オールスターズの公演を聴き、とくにベース奏者のミルト・ヒントンの衝撃を受ける。1956年に米軍ベース・キャンプで演奏を始める。その後、松本英彦カルテット、渡辺貞夫グループに参加し活動。また自己のグループでもライブ活動を行う。1963年の『幻の“銀巴里セッション”』には菊地雅章、富樫雅彦、金井英人とのセッションを残している。1970年来日したアート・ブレイキーにスカウトされ渡米、ジャズ・メッセンジャーズの一員となり全米、欧州をツアー。帰国後、『ブロー・アップ』などの名作を録音。近年は若手ミュージシャンの教育にも力を注いでいる。【2022年3月8日逝去】



2018年度 会長賞

中牟礼貞則

ギター奏者

Sadanori Nakamura

1933年(昭和8年)3月15日鹿児島県生まれ。小学生のころからギターが好きで自作の木製ギターを制作したり、蓄音器で音楽を聴いていたりした。18歳で東京都に移住して青山学院大学在学中の1952年にプロ・デビュー。渡辺貞夫、前田憲男、猪俣猛らと共演。1963年に銀巴里セッションに参加。弟子に渡辺香津美がいる。近年は壮年期に優る活動を展開し、2021年には88年の歩みを描いた書籍『中牟礼貞則 孤高のジャズ・インプロヴァイザーの長き旅路』を上梓。『INTER CROSS』(1999年)、『Remembrance』(2001年)、『ギター・サンバ』(2007年)、『Detour Ahead - Live at AIREGIN』(2020年)など、近年もアルバムを数多く発表している。



2018年度 会長賞

中本マリ

ヴォーカリスト

Mari Nakamoto

1947年(昭和22年)3月26日宮城県生まれ。3歳よりピアノとクラシック・バレエを学び、10歳で東北児童合唱団に所属。1962年東邦音楽大学附属高校声楽科入学。1970年にジャズ・ヴォーカルを志望し、1973年『アンフォゲタブル』でソロ・デビュー。1978年『スイングジャーナル』読者人気投票でヴォーカル部門第1位。以降8年連続第1位。「高橋達也と東京ユニオン」と、また「三木敏悟とインナーギャラクシー・オーケストラ」とともにモントルー・ジャズ・フェスティバルに出演。今日まで全国で精力的に活動を続ける一方、後進の指導にも力を注いでいる。

● 2019年度



2019年度 ジャズ大賞

今田 勝

ピアニスト

Masaru Imada

1932年(昭和7年)3月21日東京都生まれ。明治大学卒業後、全国各地や海外のコンサート、フェスティバル等で精力的な活動を続け、現在はピアノ・トリオを中心にスタンダード・ジャズやオリジナル曲で演奏活動に従事。『ステレオ・サウンド』録音グランプリ金賞、『スイングジャーナル』ディスク大賞2位を含む40枚に及ぶリーダー・アルバムを発表、スイス・モントルー・ジャズフェスティバル、ドイツ・デュッセルドルフ・ジャズ・フェスティバルなど出演多数。

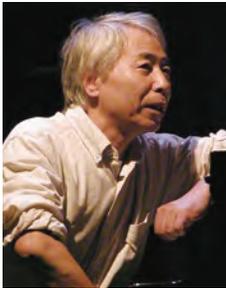


2019年度 ジャズ大賞

大野雄二 ピアニスト、作曲家

Yuji Ohno

1941年(昭和16年)5月30日静岡県生まれ。慶應義塾大学在学中にライト・ミュージック・ソサエティに在籍。藤家虹二クインテットでジャズ・ピアニストとしての活動を開始。白木秀雄クインテットを経て大野雄二トリオを結成。解散後は作曲家として多数のCM音楽制作のほか、「犬神家の一族」「人間の証明」「ルパン三世」「小さな旅」など、映画やテレビで数々の名曲を発表。近年、再びプレイヤーとしての活動を再開し、全国のライブハウスなどで精力的な活動を継続中。



2019年度 ジャズ大賞

渋谷 毅 ピアニスト、作編曲家

Takeshi Shibuya

1939年(昭和14年)11月3日東京都生まれ。東京藝術大学作曲科中退。1963年に「ジョージ川口とビッグ・フォー」に参加して一躍注目を浴びる。その後も沢田駿吾グループなどに参加。作編曲家としても活躍し、NHKの子ども番組「おかあさんといっしょ」などにも多数の作曲・編曲作品を提供している。また、歌伴奏者としても高い評価を得ており、これまで浅川マキ、酒井俊、沖山秀子らと共演している。1986年に結成した「渋谷毅オーケストラ」やソロ・ピアノなどで、ライブ活動もさかんに行っている。



2019年度 ジャズ大賞

菅野邦彦 ピアニスト

Kunihiko Sugano

1936年(昭和11年)11月13日東京都生まれ。学習院大学在学中にプロ・デビュー。当時来日していたトニー・スコットに認められる。その後、松本英彦、鈴木勲、ジョージ大塚らトップ・プレイヤーと共演。1968年に発表したデビュー作『フィンガー・ポッピング』では、エレガントで華麗にスイングするピアノ・スタイルが大いなる注目を浴びた。1976年以降、ブラジルやニューヨークでも演奏活動を行った。現在もホールやライブハウスで活躍中。



2019年度 ジャズ大賞

タモリ タレント

Tamori

1945年(昭和20年)8月22日福岡県生まれ。八面六臂の活躍の誰知らぬもの
のいないトップ・タレント。早稲田大学在学中は、名門「モダン・ジャズ研究会」
に所属。トランペットを担当。「マイルスのトランペットは泣いているが、お
前のトランペットは笑っている」と言われ楽器演奏を諦めた、という楽しい逸
話が残っている。ジャズに関する深く幅広い見識は他の追随を許さない。



2019年度 ジャズ大賞

鍋島直昶 ヴァイブラフォン奏者

Naoteru Nabeshima

1926年(大正15年)5月14日東京都出身。鍋島藩第10代藩主鍋島直正の曾孫
で、日本ジャズ界の草分けの一人。音楽家の両親の影響で4歳からヴァイオリ
ンを始め、慶應大学在学中からジャズを志す。1950年代に結成した鍋島クイ
ンテットは、「日本のジョージ・シアリング・クインテット」と評され、話題
を集めた。晩年は「ゴールデン・シニア・トリオ」を結成し、ギネスブックよ
り「世界最高齢バンド」として認定された。【2021年1月6日逝去】



2019年度 ジャズ大賞

原田イサム ドラム奏者、日本楽友会会長

Isamu Harada

1931年(昭和6年)9月28日横浜市生まれ。ドラマーのジミー原田(1911年
12月10日～1995年5月12日)の長男。1947年、京都の米軍キャンプで演奏
するバンドでプロ入り。1950年に上京して紙恭輔率いるアーニー・パイル・
オーケストラ(アーニー・パイル交響楽団)に参加。翌年「^{お前のただおさ}多忠修とゲイスター
ズ」に抜擢される。1953年には「鈴木章治とリズムエース」に移籍し、1958年
に録音した「鈴懸の径」がジャズとして空前の大ヒットを記録。1961年「原田
イサムとソフト・スティックス」結成。その後はスタジオ・ミュージシャンと
して活躍し、1960年代後半以降は秋満義孝クインテット、宮間利之ニューハー
ド、世良譲トリオ、ザ・ハーツなどに参加。現在も最長老ドラマーとして現役
活動中。【2023年10月10日逝去】



Photo by Inao Matsuyama

2019年度 会長賞

佐藤秀樹 評論家

Hideki Sato

1933年(昭和8年)東京都生まれ。早稲田大学商学部卒業。ダイヤモンド社に勤務するかたわら、『スイングジャーナル』『STEREO』誌などでジャズの評論活動始める。レコード・コレクターとしても知られ、その類まれなる知識で多くのジャズ・レコードの解説原稿を執筆。丁寧でジャズ愛に溢れる語り口にファンも多かった。映画好きとしても知られた。著書に『ジャズ・ピアノ決定盤』がある。【2021年8月25日逝去】



2019年度 会長賞

菅原正二 執筆家、ジャズ喫茶オーナー

Shoji Sugawara

1942年(昭和17年)岩手県生まれ。早稲田大学在学中にビッグ・バンドの専門サークル、ハイソサエティ・オーケストラでドラム奏者として活動。1970年に故郷の一閑でジャズ喫茶「ベイシー」を開店。ジャズ・オーディオに独自のスタイルを確立し、カウント・ベイシー本人や世界中のジャズメンも集う全国で最も有名なジャズ喫茶となった。「スウィフティー」というニックネームはカウント・ベイシーから命名されたもの。映画『ジャズ喫茶ベイシー Swiftyの譚詩(Ballad)』も話題を呼んだ。



2019年度 会長賞

中川喜弘 トランペット奏者

Yoshihiro Nakagawa

1942年(昭和17年)5月4日大分県生まれ。1958年にプロとしての活動を始め、1960年に小野満、1963年に高橋達也のバンドに参加し注目を浴びる。その後、「蘭田憲一とデキシーキングス」への参加を経て、「中川喜弘とディキシーディックス」を率いる。ベテラン・ディキシーランド・ジャズメンの代表格として現在も各地で演奏活動を続けている。



2019年度 会長賞

中平穂積

写真家、ジャズ喫茶オーナー

Hozumi Nakadaira

1936年(昭和11年)8月3日和歌山県生まれ。日本大学芸術学部写真科在学中からジャズに関心を寄せる。1961年にはアート・ブレイキー&ザ・ジャズ・メッセンジャーズの初来日時の写真を撮るとともに、新宿二幸裏にジャズ喫茶「DIG」を開店させる。1967年に姉妹店「DUG」、1976年には「ニュー DUG」をオープン。以来、写真家とジャズ喫茶オーナーというふたつの顔を持ち、内外に幅広い人脈を持つ。現在も写真展を全国で開催し、ご息子とともに「DUG」を経営している。

● 2020年度



2020年度 ジャズ大賞

荒川康男

ベース奏者

Yasuo Arakawa

1939年(昭和14年)6月12日兵庫県生まれ。戦後まもなく関西で演奏活動を始め、高校卒業と同時に東京へ。進駐軍のクラブやジャズ喫茶などで腕を磨き、「ジョージ川口とビッグ・フォー」に加入する。その後も「沢田駿吾とダブル・ビーツ」「西条孝之介とウエストライナーズ」などに籍を置きながら、ジャズ以外のさまざまな演奏も経験。坂本九とのレコーディングや、映画『椿三十郎』『男はつらいよ』など、サウンドトラックの演奏も行う。モダン・ジャズのメソッドが日本に伝わらない頃、レコードを聴いて研究した。前田憲男、猪俣猛と組んだ「We Three」は近年まで継続した名コンボ。



2020年度 ジャズ大賞

池田芳夫

ベース奏者

Yoshio Ikeda

1942年(昭和17年)1月1日大阪府生まれ。18歳の時より5年間大阪交響楽団の前野繁雄に師事。23歳で上京。ゲイリー・ピーコックに師事。大野雄二トリオ、佐藤允彦トリオ、渡辺貞夫カルテット、菊地雅章セクステット、日野皓正クインテット、藤川義明&イースタシア・オーケストラ、ジャズ・ファクトリー、宮沢昭カルテット等に参加。日野皓正グループでは、ベルリン・ジャズ・フェスティバル、ニューポート・ジャズ・フェスティバル(カーネギーホール)に出演。現在は自己のカルテット、ソロ・ベース、その他数多くのミュージシャンとのセッションで活動している。



Photo by Michinori Kusama

2020年度 ジャズ大賞

稲葉国光 ベース奏者

Kunimitsu Inaba

1934年(昭和9年)4月29日静岡県生まれ。1968年2月菊地雅章=日野皓正クインテットに参加。1970年退団後は、石川晶のフリーダム・ユニティ、鈴木宏昌トリオ、山本剛トリオその他多くのコンボでライブハウス、スタジオ、コンサートで活躍。1979年7月山本剛トリオでモントルー・ジャズ・フェスティヴァルに出演。2011年リーダー・アルバム『BASSIN' (ベイスイン)』をリリース。



Photo by Naoki Fujioka

2020年度 ジャズ大賞

岸 のりこ ヴォーカリスト

Noriko Kishi

1949年(昭和24年)7月6日東京都生まれ。ラテン音楽とジャズが流れる家庭で、ダンスや音楽に親しむ少女時代をおくる。美大卒業後、女優や舞台美術の活動の傍ら歌手活動を開始。1970年代半ばにラテン音楽と劇的に出会い、1989年には名門「東京キューバンボーイズ」の見砂直照最後の公演にも出演し、氏が生前最後に認めたラテン・シンガーとなる。1984年に初めてキューバに渡航、外国人ながら第一線で活躍をする。1993年にベネズエラのソニー・ミュージックと契約しアルバムを発売。パナマでは「のりこバス」が走るほどの人気を得た。2000年に帰国。2013年に満を持して『恋の12の料理法』を発表。都内各所での定期的なライブの他、後進の指導にも力を注いでいる。



2020年度 ジャズ大賞

テディ金城 ピアニスト、作曲家

Teddy Kinjo

沖縄県出身。日本ジャズ界を代表するピアノ・スタイリストとして高い評価を得、これまでに北村英治、稲葉国光、水橋孝、ジミー・スミス、ジーン・ジャクソン、その他、数々の日本のトップ・プレイヤーや国際的アーティストを率いて1989年より全国縦断ジャズ・コンサート・ツアーを行い、各地で好評を博している。ヴォーカルでは中本マリ、金子晴美、チャリート、フライン・キャブ、マリア・エヴァらがツアーに参加。また、シャンソンの金子由香利やラテン等の伴奏も務める。オリジナリティ溢れるピアノ・サウンドは近作『South Wind to East & North Wind』で聴くことができる。現在、鹿児島市内で1973年創立のテディ金城音楽事務所と1983年創立のジャズ・ミュージック・スクールを主宰。琉球昭林流空手道連盟、全沖縄古武道連盟沖縄錬心会総本部長。



2020年度 ジャズ大賞

水橋 孝 ベース奏者

Takashi Mizuhashi

1943年(昭和18年)3月2日北海道生まれ。独自のテクニックと楽才に恵まれ、日本はもとより、アメリカ、ヨーロッパのミュージシャンの間でも評判が高い。通称はGONさん。ハービー・ハンコックは水橋を「日本人の最もソウルフルな男」と称した。国内における活動としては、渡辺貞夫、日野皓正をはじめ一流といわれる総てのミュージシャンとの共演経験がある。現在は自己のトリオ、カルテットでコンサート活動中。年に1度の「クリスマス・チャリティー・ライヴ」を行い、収益金は(財)日本ユニセフへ委ねている。長年にわたりジャパン・ベース・プレイヤーズ・クラブの会長を務めた。



2020年度 ジャズ大賞

村岡 建 サックス奏者

Takeru Muraoka

1941年(昭和16年)1月12日東京都生まれ。高校3年で「ジョージ川口とビッグ・フォー・プラス・ワン」に抜擢されて本格デビュー。五十嵐武要クインテット、ゲイスターズ、白木秀雄クインテット、小原重徳とブルーコート、沢田駿吾クインテットなどを経て、1968年に日野皓正クインテットに参加。このグループでの斬新な演奏が高く評価され、トップ・テナー奏者となる。1971年の退団後はスタジオ・ミュージシャンの仕事に主力を注ぎ、1990年代には人気テレビ番組『オシャレ30・30』にも出演。後進の育成にも力を注ぎ、「アン・ジャズ・スクール」では34年にわたって講師を務めた。



2020年度 会長賞

岩味 潔 プロデューサー、エンジニア

Kiyoshi Iwami

1935年(昭和10年)1月31日生まれ。幼少より録音技術に関心を寄せ、学生時代に手掛けた『幻のモカンボ・セッション』は日本におけるモダン・ジャズ黎明期の貴重極まりない記録として語り継がれている。日本テレビ放送網株式会社入社後に手掛けたテレビ番組の録音も、海外で大きな評価を得た。油井正一と作った「ロックウェル・レコード」には、日本ジャズ史の貴重な記録が数多く残されている。現在は毎月開催されるホットクラブ・オブ・ジャパンで幹事長を務めている。



2020年度 会長賞

岡村 融

レコード・プロデューサー

Toru Okamura

1934年(昭和9年)8月1日東京都生まれ。坂本九、鈴木章治などのマネージャーを務めた後、1964年にポリドール株式会社に入社。企画立案した『幻のモカンボ・セッション』のレコード化、ビリー・ホリデイのヴァーヴ音源編集盤のグラミー賞ノミネート等々、レコード・プロデューサーとして30年以上に渡り日本のジャズ界の牽引役として活躍した。レコード・コレクターでもあり、その豊富なジャズの知識を存分に活かし、今も執筆活動に余念がない。ホットクラブ・オブ・ジャパン会長。



2020年度 会長賞

寺島靖国

ジャズ評論家、レーベル主宰

Yasukuni Terashima

1938年(昭和13年)2月11日東京都生まれ。早稲田大学文学部独文科を卒業。会社勤務を経て、1970年、東京・吉祥寺にジャズ喫茶「メグ」を開店(2018年寺島がオーナー兼マスターを務めたメグは営業を終了)。雑誌にジャズ、オーディオに関する評論、エッセイを発表。なにもものにも属さない評論にはファンが多い。2007年寺島靖国プロデュースによる、「寺島レコード」を発足。現在に至るまで多数のアルバムをリリース。著書は『JAZZ ピアノ・トリオ名盤500』『JAZZ オーディオ悶絶桃源郷』『辛口! JAZZ ノート』『テラシマ円盤堂』『JAZZ 遺言状』など多数。



2020年度 会長賞

悠 雅彦

評論家

Masahiko Yuh

1937年(昭和12年)11月1日神奈川県生まれ。早稲田大学文学部英文科卒。早大ハイソサエティ・オーケストラのヴォーカリストから北村英治グループなどの専属を経て、1969年ジャズ評論家として独立。日本を代表するジャズ評論家のひとりとして第一線で活躍。1975年評論活動の一環として自らWhyNotレーベルを設立、多くの有能なアフリカン・アメリカン系ミュージシャンを広く世に紹介した。2004年より月刊ウェブ・マガジン『JazzTokyo』の編集主幹としてジャズ・ジャーナリズムをリードし続けている。著書に『ジャズ進化・解体・再生の歴史』(1998年)、共著に『ジャズCDの名盤』(2000年)などがある。【2023年10月14日逝去】



Photo by Hiroyuki Seo

2020年度 奨励賞

挟間美帆

作編曲家、指揮者、ピアニスト

Miho Hazama

1986年(昭和61年)11月13日生まれ。国立音楽大学およびマンハッタン音楽院大学院卒業。これまでに山下洋輔、東京フィルハーモニー交響楽団、ヤマハ吹奏楽団、NHKドラマ「ランチのアッコちゃん」などに作曲作品を提供。NHK交響楽団、テレビ朝日「題名のない音楽会」などへ多岐にわたり編曲作品を提供する。New York Jazzharmonic (アメリカ)、Metropole Orkest (オランダ)、Danish Radio Big Band (デンマーク)、WDR Big Band (ドイツ)などからの招聘を受け、作編曲家としてだけでなくディレクターとしても国内外を問わず幅広く活動している。2016年には米『ダウンビート』誌の「未来を担う25人のジャズアーティスト」にアジア人でただ一人選出され、2019年『ニューズウィーク』日本版「世界が尊敬する日本人100」に選ばれるなど高い評価を得る。



2020年度 功労賞

大橋美加

ヴォーカリスト

Mika Ohashi

1959年(昭和34年)8月29日東京都生まれ。短大在学中にプロ・デビュー。1986年日本ジャズ・ヴォーカル賞新人賞を受賞。以降、レイ・ブライアント他ビッグ・ネームと共演。シネマ・エッセイストとしても3冊の著作を発表。1996年よりNHK-FMジャズ番組の構成・選曲・DJを足かけ10年間担当。2005年より衛星デジタルラジオ『美加のNice 'N' Easy Time』が放送中。2014年12枚目のリーダー・アルバム『With Love to Nat』を発売。2016年83歳の母親・マーサ三宅を初めてゲストに迎え家族への思いを込めたハートウォーミングなアルバム『HOME』を発表。2017年自身初の自叙伝『父・巨泉』を上梓。2018年第34回日本ジャズヴォーカル賞大賞受賞。



Photo by Koichi Uchida

2020年度 功労賞

高山恵子

元『ジャズワールド』副編集長、
ヴォーカリスト

Keiko Takayama

栃木県宇都宮市生まれ。幼少の頃より合唱団、オペレッタなどの舞台上で活躍。早稲田大学卒業後、ジャズ・ヴォーカリストとして2000年「日中友好ジャズ・フェスティバル」において中国・上海でプロ・デビュー。近年はラテン・タンゴにも情熱を注ぎ、2009年3月自己のグループ「高山恵子と楽団南十字星」を旗揚げする。南十字星圏内のポピュラー・ソングをラテン・タッチで歌い、多彩な言語を駆使したステージを展開、ジャンルを超えたスケールの大きさ、エンターテインメント性溢れ情感豊かで人の心に届く本格的な歌唱を絶賛される。1979創刊、2020年2月休刊の『ジャズワールド』の副編集長を務めた。「日本ジャズヴォーカル賞」の選考委員を1998年より21年歴任。2017年ラジオ日本「MJM ミュージックアワー」でパーソナリティを務めた。現在、中央学院大学非常勤講師(英語)でもある。

2019年度～2020年度

日本ジャズ音楽協会名誉会長賞

(大島理森衆議院議長賞)

衆議院議長時代の大島理森が、当協会の名誉会長に就任していた2019年度と2020年度に、「ジャズ大賞」とは別に、長年のジャズ音楽に対する貢献の著しいアーティストに賞状と副賞の授与を行いました。

● 2019年度



原 信夫 サックス奏者、バンドリーダー、作曲家 *Nobuo Hara*

1926年(大正15年)11月19日富山県生まれ。ビッグ・バンド「原信夫とシャープス&フラッツ」のリーダー。1950年に米軍キャンプなどに出演していたムーンライト楽団に入団、同バンドのリーダーとなり、翌1951年シャープス&フラッツに改名。アレンジに力を入れ、いち早くダンス・バンドからコンサート・バンドへ転身し、1967年日本のバンドでは初めてニューポート・ジャズ・フェスティバルに出演。アルバム・リリース、テレビ出演多数。2009年宮中の桃華楽堂において「天皇皇后両陛下御成婚50周年及び天皇陛下ご即位20周年奉祝行事」の一環として開催された木曜会主催の音楽会に自身のバンドを率いて出演。2010年シャープス&フラッツ解散。1988年度紫綬褒章、1998年度勲四等旭日小綬章受章。【2021年6月21日逝去】

阿川泰子 ヴォーカリスト 2017年度 ジャズ大賞受賞

今田 勝 ピアニスト、作曲家 2019年度 ジャズ大賞受賞

大野雄二 ピアニスト、作曲家 2019年度 ジャズ大賞受賞

丸山繁雄 ヴォーカリスト 2017年度 会長賞受賞



北村英治

クラリネット奏者

Eiji Kitamura

1929年(昭和4年)4月8日東京都生まれ。慶應義塾大学在学中にクラリネットを学ぶ。22歳でプロ・デビュー。30歳の時、憧れだったベニー・グッドマン来日の際には彼の目の前で演奏し賞賛を受けた。そもそも北村がジャズを志したのは、終戦直後の進駐軍放送でグッドマンの「シング・シング・シング」を聴き、その明るく力強い演奏に平和の到来を感じたことに発している。主なアルバムは『北村英治のすべて』、「原信夫とシャープス&フラッツ」と共演した『ベニー・グッドマン作戦』(1963年)、テディ・ウィルソンと共演した『君去りし後』など多数。90歳を越えた高齢ではあるが、現在でも「銀座Swing」などのライブハウスでのセッションを精力的にこなしている。2007年度旭日小綬章受章。



外山恵子

バンジョー奏者

Keiko Toyama

1942年(昭和17年)生まれ。早稲田大学出身。ジャズ・ピアノに興味を持ち、立川高校の先輩が所属していた早稲田大学ニューオーリンズジャズクラブに入部。このクラブで外山喜雄と出会い、卒業後結婚。1967年12月30日に夫婦でニューオーリンズ武者修行に出発。ジャズの故郷でジャズを学び、1973年帰国後、外山喜雄が結成したデキシーセイन्ツに参加。1994年ルイ・アームストロングとニューオーリンズ・ジャズの魅力を広く伝えるために夫とともに「日本ルイ・アームストロング協会」を設立。「銃に代えて楽器を」の合言葉で多くの楽器をニューオーリンズに送ったことにより、同市より夫婦そろって「ニューオーリンズ市名誉市民」の称号が授与された。

秋満義孝

ピアニスト

2017年度 ジャズ大賞受賞

五十嵐明要

サクソ奏者

2017年度 ジャズ大賞受賞

原田イサム

ドラム奏者

2019年度 ジャズ大賞受賞

下段受賞者のプロフィールは当協会授賞各賞のページをご覧ください。

当協会推挙による叙勲・表彰受章者

当協会は、正式な発足以前より、ジャズ関係者への栄典授与を目指した積極的な働きかけを行い関係行政機関のご理解を得て、これまでに下記の方々への褒章、表彰等を実現しています。



2014年度 文化庁長官表彰

前田憲男

ピアニスト、作編曲家

Norio Maeda

1934年(昭和9年)12月6日大阪府生まれ。小学校教師であった父より、幼少より読譜を学ぶ。大阪府立桜塚高等学校卒業と同時に、プロのジャズ・ピアニストとして活動を開始。ピアノ・指揮法とも独学で習得する。1955年に上京、名門ジャズ・バンド「西条孝之介とウエスト・ライナーズ」などのメンバーとして活躍。1980年には「前田憲男とウィンドプレイヤーズ」を結成。ビッグ・バンド・アレンジを数多く手がけるほか、東京フィルハーモニー交響楽団のポップス部門音楽監督。2003年からは大阪芸術大学音楽学科教授を務めた。【2018年11月25日逝去】



2015年度 文化庁長官表彰

瀬川昌久

評論家

Masahisa Segawa

1924年(大正13年)6月18日東京府生まれ。東京帝国大学法学部在学中の1942年に学徒出陣。戦後は太平洋方面の抑留者の帰還業務に従事。復学して1950年東京大学法学部卒業後、富士銀行に入行する。ニューヨーク駐在中より評論活動を開始。来日することのなかったチャーリー・パーカーらの演奏を本場で聴く経験を持つ。富士銀行退職後は、音楽関連の企画などを精力的に行う。著書は『ジャズで踊って一舶来音楽芸能史』『瀬川昌久自選著作集』他。レコード各社の戦前の貴重な音源発掘事業は高く評価されている。【2021年12月29日逝去】



2016年度 文化庁長官表彰

内田晃一

ヴァイブラフォン奏者
元『ジャズワールド』編集長

Koichi Uchida

1927年(昭和2年)1月15日栃木県鹿沼市生まれ。1947年芝浦工業専門学校(現・芝浦工業大学)建築科卒業。新宿区内の建設会社に入社したが間もなく肺結核となり宇都宮で療養後、栃木新聞に入社。当時宇都宮工業高校生だった渡辺貞夫とアマチュアのジャズ・バンドを組み、市内のダンスホールや米軍クラブなどで演奏。1951年上京しプロ・ミュージシャンとして活動開始。1979年月刊新聞『ジャズワールド』を発刊。とくにヴォーカル界の活性化と発展の場を提供した。2016年文化庁宮田亮平長官より文化庁長官表彰を受けた。

2014年度 文化庁長官表彰
2018年度 文部科学大臣表彰

秋満義孝 ピアニスト

2017年度
ジャズ大賞受賞

2017年度 文化庁長官表彰

猪俣 猛 ドラム奏者

2017年度
ジャズ大賞受賞

2018年度 紫綬褒章

小曾根 真 ピアニスト

2017年度
ジャズ大賞受賞

2018年度 文部科学大臣表彰

五十嵐明要 サックス奏者

2017年度
ジャズ大賞受賞

2018年度 文部科学大臣表彰

外山喜雄 トランペット奏者

2017年度
ジャズ大賞受賞

2018年度 文化庁長官表彰

森 寿男 バンドリーダー

2017年度
ジャズ大賞受賞

2019年度 文化庁長官表彰

佐藤允彦 ピアニスト、作編曲家

2018年度
会長賞受賞

プロフィールは当協会授賞各賞のページをご覧ください。

《参考資料》

ジャズ関係者のおもな叙勲・表彰

穂吉敏子 ピアニスト、作編曲家
バンドリーダー
1997年度 紫綬褒章
2007年度 旭日小綬章

ジョージ川口 ドラム奏者(故人)
1988年度 紫綬褒章
1997年度 勲四等旭日小綬章

野口久光 評論家(故人)
1978年度 紫綬褒章
1983年度 勲四等旭日小綬章

日野皓正 トランペット奏者
2004年度 紫綬褒章
2019年度 旭日小綬章

マーサ三宅 ヴォーカリスト
2000年度 紫綬褒章
2006年度 旭日小綬章

松本英彦 サックス奏者(故人)
1991年度 紫綬褒章
1998年度 勲四等旭日小綬章

山下洋輔 ピアニスト
2003年度 紫綬褒章
2012年度 旭日小綬章

油井正一 評論家(故人)
1996年度 勲四等瑞宝章

雪村いづみ ヴォーカリスト
1998年度 紫綬褒章
2007年度 旭日小綬章

渡辺貞夫 サックス奏者
1995年度 紫綬褒章
2005年度 旭日小綬章

渡辺香津美 ギター奏者
2022年度 文化庁長官表彰

(五十音順)

一般社団法人 日本ジャズ音楽協会

- 会長 **大島理森** (元衆議院議長)
- 顧問 **佐藤 修** (元日本レコード協会会長)
- 理事長 **小針俊郎** (24JazzJapan 代表取締役、一般社団法人横浜ジャズ協会副理事長)
- 副理事長 **青野浩史** (合同会社 青野音楽事務所)
- 理事 **外山喜雄** (日本ルイ・アームストロング協会会長)
- 理事 **湯川れい子** (音楽評論家、作詞家)
(理事 五十音順)
- 監事
事務局 **田中ますみ** (音楽コーディネーター)

*前会長の石井一は2022年6月4日に永眠いたしました。

連絡先 〒101-0021 東京都千代田区外神田5-6-12 コーワビル3-602号
Fax: 03-3837-0620 / E-mail: info@jazz-music-assoc.jp
HP : <http://jazz-music-assoc.jp/>

当協会
ウェブサイト



《参加団体》

- 一般社団法人 日本レコード協会
- 一般社団法人 横浜ジャズ協会
- 一般社団法人 ミュージック・ペンクラブ・ジャパン
- 一般社団法人 日本ジャズ協会 21
- 日本楽友会

《協賛会社》

- 株式会社 JVC ケンウッド・ビクターエンタテインメント
- キングレコード株式会社
- ユニバーサルミュージック合同会社
- 株式会社ソニー・ミュージックレーベルズ
- 株式会社ポニーキャニオン
- 株式会社ワーナーミュージック・ジャパン
- エイベックス・エンタテインメント株式会社

《表彰式典の様子》

2018年 ジャズ大賞授与式



2018年 文部科学大臣表彰



撮影：相馬威宣

2019年 名誉会長賞授与式



2020年 名誉会長賞授与式



2021年 ジャズ大賞授与式



2022年 ジャズ大賞授与式



一般社団法人 日本ジャズ音楽協会 2023 ブックレット
2023年(令和5年)11月23日発行

発行：一般社団法人 日本ジャズ音楽協会
デザイン：池上信次
© 2023 Japan Jazz Music Association

JAPAN
JAZZ
MUSIC
ASSOCIATION

2023